

[カテゴリ] 貢献 [実施主体] 地域共生研究センター

事業概要

群馬県の近現代史研究、特に戦前・戦後の群馬県の歴史について研究を行っています。研究は、本学教員ならびに本学教育に縁のある研究者で構成される「群馬現代史研究会」を中心に行っており、研究成果の発表・共有を毎年10月と3月の2回行っています。この会には、委員のほか、興味・関心のある方は誰でも参加が可能です。



連携先

なし

2023年度実績・成果

2023年10月7日（土）・2024年3月2日（土）14：00～16：00 <参加者>各回約20名

10月7日（土）に開催した第27回群馬現代史研究会では、「群馬から考える3.11」というテーマで、西館崇准教授（本学）より報告をいただきました。翌年3月2日（土）に開催した第28回群馬現代史研究会では、「群馬から考える3.11（2）」をテーマとし、第27回に引き続き西館先生と、県内酪農従事者の方より報告をいただきました。いずれの回も、報告後は参加者全員で活発な意見交換を行いました。



2024年度実績・成果

2024年10月12日（土）14：00～16：00・2025年3月1日（土）13：00～16：30 <参加者>約20～40名

10月12日（土）に開催した第29回群馬現代史研究会では、「満州事変と群馬県民－『上毛新聞』にみる社会の変容」というテーマで、福田博美氏より報告をいただきました。

翌年3月1日（土）は記念すべき第30回ということで、記念シンポジウムを開催し、「戦後80年と群馬現代史研究会の歩み」というテーマで大沼久夫名誉教授（本学）、宮崎俊弥名誉教授（本学）、岩根承成氏（本学元講師）、井坂優斗氏（館林市史編さんセンター）が講演およびパネルディスカッションを行いました。いずれの回も、報告後は参加者全員で活発な意見交換を行いました。

